



# 広報せとうち 2

令和5年  
月号

絆で創る、魅力あふれる豊かな町づくり  
みんなで早寝、早起き、ラジオ体操、朝ごはん！



## まちの人口と世帯 住民基本台帳 令和4年12月末

人口 | 合計  
8,442人 (前月比: +7)

人口 | 男  
4,164人 (前月比: +2)

人口 | 女  
4,278人 (前月比: +5)

世帯数 | 合計  
5,170世帯 (前月比: +5)

## もくじ —information—

- 02 | 「瀬戸内町20歳の祝い」「国史跡指定答申」
- 06 | 2月のお知らせ「観光物産展 in 尼崎」  
「所得申告が始まります」ほか
- 22 | まちのできごと  
「消防出初式」「第47回町駅伝競走大会」ほか
- 26 | 古高だより
- 27 | 戸籍の窓
- 27 | 2月休日当番医のお知らせ

# 令和5年 瀬戸内町20歳の祝い

1月4日(水)に清水公園総合体育館にて「令和5年瀬戸内町20歳の祝い(はたちのいわい)」を開催しました。

今回の対象は平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの皆さんで、当日は51人が出席しました。

令和4年4月1日から、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これまでどおり20歳の方を対象とし、「成人式」から「20歳の祝い」へ名称を変更して初めての開催となりました。

オープニングは町内のハワイアンフラ教室 ALOHA HULA AMAMIの皆さんで、息の合ったダンスで式典に花を添えました。

教育長は、昨年のサッカーワールドカップでの日本代表サムラ

イブルーの活躍を挙げ「柔軟性、主体性、継続性といった、生き抜く力が必要であり、皆さんの今後ますますの精進を期待します。」と式辞を述べました。

町長は「社会が大きく変わり始める中でも、常に目標を持ち、将来の社会における役割を若い情熱を込めてたくましく果たし、ふるさとの発展に貢献できる人材になってほしいと願っています。」と祝辞を述べました。

在郷青年団体験発表では、毎年25歳の同級生で組織される「古仁屋青年団」の団長・上原僚介さんと副団長・三島早耶香さんが、後輩たちへ激励のメッセージを送りました。

また、「5年後の私へ(中学3年生の時に書いた写真付きメッセージ)」のスライド

ショーに加え、「そして今」として、スクリーン上の写真に合わせ、晴れ姿の皆さんが舞台上に順番に登場し、個性豊かなパフォーマンスも見られました。成長した姿に拍手を送る保護者らに、笑顔で手を振り応えていました。

出席者を代表して、伊藤雄大さんと米田瑠佳さんが所感発表を行い、今後の抱負や決意を述べました。

さらには、20歳の方々の制作による初の「フォトスポット」が好評で、盛り上がりを見せていました。

保護者や恩師の温かい眼差しに見守られながら行われた式典には、20歳の皆さんの晴れやかな笑顔があふれていました。



式典の様子はこちらから、  
町公式 YouTube にてご覧いただけます



ピアノ演奏を担当した  
関 仁美さん

恩師代表挨拶  
中辻 文宏先生

記念焼酎ボトルを受け取った  
屋崎 隼作さん

古仁屋高校生の  
運営ボランティア



米田 瑠佳さん

元々人を笑顔にすることが好きで、自分の作ったもので人を笑顔にできる仕事に就くことが決まり、嬉しく思っています。今までたくさんの方が私を笑顔にしてくれた分、少しでも社会に恩返しできればと思います。

伊藤 雄大さん

一人暮らしやアルバイトを始め、親やまわりの人の偉大さを改めて実感しました。今日を迎えられたのは、家族や地域の方、先生方、仲間のおかげです。今後少しでも地域社会に貢献できるよう、成長していきたいと思っています。



5年後の私へ、そして今

在郷青年団体験発表

上原 僚介さん 三島 早耶香さん



# 瀬戸内町の「奄美大島要塞跡」が 国指定史跡の答申を受けました



©(株)奄美群島環境文化総合研究所



詳細は町ホームページにも掲載  
していますので、ご覧ください。

国の文化審議会は、令和4年12月16日(金)に開催された、同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、本町に所在する「奄美大島要塞跡(あまみおおしまようさいあと)」を国の史跡に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。

この答申を受け、官報に告示されますと、「奄美大島要塞跡」は正式に国指定史跡となる予定です。正式決定されますと、瀬戸内町では初の国指定史跡となります。

今回、国の史跡指定となります遺跡は、奄美大島要塞跡の構成遺跡のうち、「西古見砲台跡(にしこみほうだいあと)」、「安脚場砲台跡(あんきゃばほうだいあと)」、「手安弾薬本庫跡(てあんだんやくほんこあと)」の3遺跡となります。

## 遺跡の概要

奄美大島要塞跡は、奄美大島と加計呂麻島に挟まれた大島海峡西口を中心に建設された陸軍の要塞跡です。奄美大島要塞は1921（大正10）年に砲台建設が開始され、世界情勢に即した国防施策により、断続的に建設が継続されました。大島海峡防備のため築かれた要塞は、その後、アジア・太平洋戦争終結まで使用されました。

奄美大島要塞跡は、大島海峡付近に要塞の遺構（施設跡）が集中的に残存し、要塞全体の理解が可能であり、ワシントン海軍軍縮会議や太平洋戦争の開始など、近代日本の国防施策と密接に関係する遺跡群であることから、日本の近・現代史を理解する上で重要な遺跡であるとの評価を受けました。

## 奄美大島要塞跡の構成遺跡

西古見砲台跡は瀬戸内町西古見に所在する遺跡です。1921（大正10）年に砲台建設が開始され、1940（昭和15）年に28糎榴弾砲が配備されました。大島海峡西口より侵入する敵艦を阻止するため、砲台を設置しました。観測所は公園化されており、観測用窓上部壁には、海峡内の島影が精緻に描かれた絵図を見ることができま

### 西古見砲台跡



安脚場砲台跡は瀬戸内町渡連に所在する遺跡です。1921（大正10）年に砲台建設が開始され、陸軍撤収後は、海軍により使用されました。大島海峡東口より侵入する敵艦を阻止するため、管制機雷を設置し、衛所で聴音監視を行っていました。公園化されており、施設を見学することができます。

### 安脚場砲台跡



手安弾薬本庫跡は瀬戸内町手安に所在する遺跡です。1931（昭和6）年頃より、奄美大島要塞全砲台用の弾薬庫（火薬庫）として建設されました。弾薬庫は3基建設され、いずれも「洞窟式」で、内部は2重構造となっています。現在、第2および第3弾薬庫を見学することができます。

### 手安弾薬本庫跡



## 遺跡見学時のご注意

- ・遺跡は、建設から80年以上経過しており、崩壊の危険がございます。長く保存するためにも、施設に触れないようにしてください。
- ・危険な箇所が多ございますので、安全に十分ご注意ください。
- ・民有地もございますので、公園以外は立ち入らないでください。
- ・電波の届かない箇所も多数ございますので、単独見学はお控えください。

## お知らせ

### ■瀬戸内町内の近代遺跡シンポジウム

2月11日(土)きゅら島交流館にてこれまでの調査報告などを行うシンポジウムを開催します。上記の3遺跡も含む内容です。ご参加をお待ちしています。  
※詳細は7ページのお知らせ欄および町ホームページをご覧ください。

### ■瀬戸内町内の近代遺跡のパンフレット & マップ（春頃配布予定）

上記3遺跡を含む6遺跡について、詳細を記載したマップ（6種）とパンフレット（1種）を作成中です。完成後は全戸にお届け予定です。